

アピール

日本国憲法が施行されてから 72 年、この間、日本は戦争に巻き込まれることなく、平和を維持し一人の戦争による死者を出すこともありませんでした。甚大な犠牲を伴った戦争の反省から、戦争と武力行使を永久に放棄し、不戦の誓いとして日本国憲法を制定したからです。しかし、その憲法に「自衛隊」を書き込み、アメリカからミサイルや戦闘機などの高額兵器を大量に購入し、航空母艦をも保有して軍事大国化をはかり、集団的自衛権を行使し、戦争のできる国に変えようとする動きが強まってきました。

安倍首相は、2月の自民党大会で「いよいよ立党以来の悲願である憲法改正に取り組むときが来た」と表明し、「憲法にしっかり自衛隊を明記し、違憲論争に終止符を打とう」と強調しました。改憲を進めようとする勢力が衆参両院で3分の2を占めている今、「9条への自衛隊書き込み」「緊急事態条項の新設」「教育の無償化」「参院合区の解消」の4項目について、「改憲発議」を強行し何が何でも「憲法改正」を強行する構えです。

自民党は、全選挙区に「憲法改正推進本部」を設置し、戦前体制の復活を目指す右翼団体「日本会議」と連携し、改憲世論を高めようとしています。国民投票となれば、資金力にもものを言わせ、マスメディアを総動員して、改憲多数派を形成しようとするでしょう。「アベ改憲」を止めるには、国会での「改憲発議」を行わせない取り組みが重要です。

世論調査で国民の 60%は、「憲法改正に反対」の意思表示をしています。「安倍9条改憲NO！憲法を活かす全国統一署名」は 1,750 万筆に到達しました。しかし、「憲法改正反対」運動のうねりはまだまだ弱く、多くの国民は無関心を装っています。こうした風潮の中、佐高信さんに「宮沢喜一から吉永小百合までのエピソード」を交え、日本国憲法の大切さを解き明かしていただきました。

今日は、「安倍9条改憲 NO！」の大規模な集会や行動が全国で行われています。私たちは、誰にも負けない平和を希求する強い心と、力で押さえつけようとする権力に決して屈しない精神を持っています。私たちの生活に結び付いた身近な問題から憲法を考え、憲法の理念と憲法の保障する人権を、現実の政治と暮らしに活かす運動を、職場・地域から巻き起こし、憲法改悪の動きを止めましょう。

2019年5月3日

5・3憲法フォーラム in しずおか「憲法記念日講演会」